

園の輪

そののわ No.179

学校法人 甲子園学院



関西吹奏楽コンクール高等学校A部門金賞を受賞(朝日新聞社提供)

CONTENTS

〈ESSAY 2021〉 2

「園芸と教育」

吉 長 成 恭

〈学院トピックス〉 3

八木典子甲子園大学名誉教授に

兵庫県教育功労者表彰受賞

〈学校園だより〉 4～9

幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学

学院生の活躍 10

園芸と教育

吉 長 成 恭



チャールズ・A・ルイス (Charles A. Lewis 1924-2003) は米国ペンシルベニア州生まれで、植物と人間の関係について、社会学、生物学、医療、福祉、建築、教育、心理学など多面的な視点で、思慮深く研究しています。著書『Green Nature Human Nature-The Meaning of Plants in Our Lives』(1996) (邦題『植物と人間の絆』私たちの生活における植物の意味)、『2014 著者邦訳監修』は、世界中の園芸福祉や園芸療法に関心を寄せる人たちのバイブル的存在です。植物の葉緑素(クロロフィル)と動物の血色素(ヘモグロビン)の化学構造はとてもよく似ていて、構造の中心がFeかMgかの違いです。ルイスはこれら二つの重要な生命体の構成成分の類似性は、生命が地球に誕生した原始スープの中でどこか共通の起源があることを示唆しています。

趣味としての園芸は精神的・心理的・身体的効果を得ることができます。地域コミュニティでの園芸活動は趣味の園芸効果に加え、社会園芸としての効果、うつ病や認知症の重症化予防、介護予防効果が期待できます。地域の自発的な連帯が必要な現代だからこそ、園芸福祉活動による社会的価値を共有したいものです。

園芸の教育的効果は植物知識や栽培のノウハウを体得する機会が増えるとともに、心豊かな生活習慣が身につくことです。植物の生長とともに学生の感受性が豊かになっていくのは、園芸教育の大きな愉しみです。

さて、感受性の豊かさを数値化することは極めて困難ですが、西洋音階のオクターブを用いてみましょう。一般的に私たちの発声可能な音域は、2〜3オクターブが限界です。次に声に出さないで頭の中で、ドレミファソラシドと音域を想像してつづいてみましょう。すると発声していないにもかかわらず、高音域に達し始めるとなぜか息苦しくなってきました。それでも発声限界よりやや音域は広がって、4〜5オクターブ程度まで想像できそうです。どうやら私たちが自発的に発声したり想像したりすることには限界がありそうです。ピアノが88鍵盤で7オクターブと4分の1(27・5Hz〜4,186Hz)に定着したのは1890年代です。人間の可聴域は20Hzから20,000Hzですが、音階を判別して音楽を楽しむには、7オクターブ程度で十分ということになります。

つまり、私たちの自発的な発声限界や想像限界より、外部からの刺激の感受性はより幅広いということです。自らを何も語らない植物の世話をすることは、この感受性をより豊かにします。感受性が無限に拡がり自発性を広げていくことを信じ、数値化できる教育で認知能力を、園芸や芸術に触れる教育機会を活かして非認知能力を育んでいきたいと思っています。

生涯を植物と人間の関係の思慮深い研究に捧げた、ルイスの言葉は印象的です。1981年ワシントンポストのインタビューに、植物が生長するとき、人はその美しい植物よりも、もっと美しい人として成長している」と応えています。

よしなが はるゆき ●甲子園短期大学特任教授

医学博士、商学修士、脳神経内科医、産業医、漢方専門医。広島大学大学院社会科学研究科経済学専攻博士課程単位修得退学、パリ大学、国立パリ高等商学院招聘講師、広島大学医学部講師、広島国際大学教授、広島大学大学院人間社会科学研究科特別支援教育専攻、県立広島大学大学院経営管理研究科客員教授などを経て、岐阜県立国際園芸アカデミー客員教授。特定非営利法人日本園芸福祉普及協会理事長

創立八十周年を迎えました

校祖久米長八先生が、理想の教育実現のため、昭和十六年に甲子園高等女学校を創設してから甲子園学院は今年で創立八十周年を迎えました。

昭和十六年は太平洋戦争が勃発し、まさに国難の年に学院は産声を上げたのです。その後、昭和二十年の敗戦、二十九年の校祖先生の急逝などの試練を乗り越え、今や幼稚園から大学・大学院までを擁する県下唯一の総合学園に発展しました。

しかし少子化という私学経営にとって逆風の最中の平成二十七年、学院中興の祖である二代目学院長久米利男先生の逝去、そして昨今はコロナ禍という未曾有の災厄にも見舞われております。

このようにこれまでの道のりは決して平たんではありませんでしたが、八十年の歴史を刻むことが出来るのも幾多の先人が見えるところ、見えないところで力を尽くしてこられた賜物です。

現在は少子化の進展、コロナの蔓延など困難が立ちばだかつていますが、それは全国どの学校も同じです。それだけに今ほど、甲子園ファミリーの団結が求められる秋（とき）はあります。そしてこの八十周年を、将来の九十年、百年に繋ぐことが出来るよう、教職員・学生生徒児童園児の一人ひとりが、建学の精神を身を以て示す、八十周年の今年はその決意を新たにしてい前進する年にしなければなりません。

学院のあゆみ

昭和16	甲子園高等女学校設立
23	学制改革により甲子園中学校、甲子園高等学校と改称
26	甲子園学院中学校・高等学校と改称。甲子園学院小学校並びに甲子園学院幼稚園設立
29	久米長八校長・学院長死去 第2代学院長に久米利男就任
30	校祖第1回忌追悼式
39	甲子園短期大学開学(家政科)
42	甲子園大学開学 (栄養学部栄養学科)
62	校祖生誕100周年記念式典
平成2	教育振興基金設置
3	創立50周年記念行事
13	学院美術資料館 ～久米アートミュージアム～開館
27	久米利男第2代学院長死去 第3代学院長に久米知子就任

おめでとうございます

八木典子甲子園大学名誉教授 兵庫県功労者表彰を受賞

七月十四日、八木典子甲子園大学名誉教授（前甲子園大学副学長・元栄養学部長・元栄養学研究科長）が兵庫県功労者表彰（教育功労）を受賞しました。この賞は

兵庫県内の教育の振興に貢献し、その功績が特に顕著であると認められた人が、兵庫県知事より表彰されるものです。

八木先生は、昭和五十四年以来、



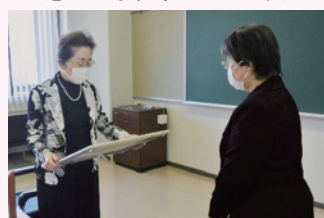
助手、講師、助教授、教授、学部長・研究科長として四十有余年、教育全般に携わり、優秀な人材の輩出、育成に多大な貢献をされました。

この間、日本栄養・食料学会、日本栄養改善学会、日本スポーツ栄養学会などの評議員、役員を務め、栄養学の研究を通して、国民の健康増進や健康問題を解決する活動に尽力されました。また、兵庫県健康食生活検討委員会委員、尼崎市学校給食検討委員会委員、宝塚市食育推進会議委員を歴任し、地域の食育推進を総合的・計画的に行うために学識経験者として活動を重ねてこられました。

名誉教授称号を授与

八木先生は管理栄養士国家試験対策や学生の臨地実習対策、大学院生指導など教育の充実に尽力されました。

四月二十日の授与式では、久米知子学院長から称号記が授与され、長年に亘る



教育・研究の功績をたたえ、本学の発展に貢献をされたことへの感謝の言葉があり、続いて八木研究室を代表して福田専任講師からお祝いの言葉を述べました。

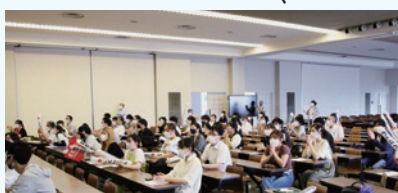
東京オリンピック 女子シンクロ高飛び込み 板橋・荒井ペア 六位入賞

七月二十七日、女子シンクロ高飛び込みで板橋美波さん（心理学部四年生）と

荒井祭里さんのペアは、六位に入賞しました。



甲子園大学三号館二階の講堂に設けられた会場には、



板橋選手を応援する学生・教職員が集まり、設置された大型モニター画面を食い入るように見つめました。特に四本目の前宙返り三回半えび型（107B）の演技で二人の動きがそり、高得点を

を出した場面では、会場の盛り上がりも最高潮に達しました。結果は、最後の五回目で得点が伸びず六位入賞となりました。

板橋さんは、16年リオデジャネイロ五輪では日本女子高飛び込みで、日本勢として八十年ぶりの六位入賞を果たしました。東京五輪に期待が高まりましたが、右目の網膜剥離の発症、右足の疲労骨折など大きな試練が重なりました。しかし、諦めず、練習を積み重ねて代表の座をつかみました。板橋選手の挑戦する姿は、応援する人の目に焼きついたでしょう。

入園式

四月九日、子どもたちが植えたチューリップが、赤・白・黄・ピンク・紫と、色とりどりに咲き誇る中、入園式を迎えました。

春の心地よい晴天のもと、少し大きめの制服に身を包み、元気に登園してきた子どもたちは、初めて担任と顔を合わせ、クラスの名札をつけてもらおうと、嬉しそうに名札を見つめたり、緊張で保護者の手をぎゅっと握りしめたり、様々な姿を見せてくれました。

新型コロナウイルス感染防止のため、ホールでの入園式は十分な換気と座席の間隔を考慮し、内容を工夫して行いました。間隔を空けて友だちと一緒にベンチに座

り、園長のお祝いの話をし

つかりと聞くことができた。ま

た、年長児からの幼稚園紹介のベ

プサートを興味をもって見たり、聞いたたりし、幼稚園だけでなく、素敵なお兄さん・お姉さんたちにも憧れをもちました。式が終わると保育室でこれから毎日出席した

らシールを貼る「園のおたより」やカラー帽子を受け取った子どもたち。楽しみにしていた幼稚園生活がスタートしました。



プール遊び

昨年度実施できなかったプール遊びを、感染対策をしっかりと講じ行いました。プールを一台増やして一面あたりの入水人数を減らし、プールに入りする子ども同士が密にならないように、交代時間を十分に与えました。



様々な動物になって遊び、水が顔にかかっても平気になった年少組。水のかけ合いっこをしたり、ワニになって体が浮くことを体感したりした年中組。年長組はビート板を使ってバタ足をしたり、顔をつけてフープくぐりをしたりして、泳ぐことにつなげました。どの学年も水鉄砲やジョウロやバケツ、ボールで遊んだり、金魚やあひるをポイですくったりしてキラキラ輝く水の中で友だちと関わり、夏ならではの楽しい時間を過ごしました。

イネーブルガーデン 楽しかった

年長組 五月十日

気持ちのいいさわやかな風が吹く中、甲子園短期大学のイネーブルガーデンに行きました。

「ここの中に入ってみたかったんだ」「いつも、お花が綺麗に咲いているよね」と、ドキドキわくわくしながら一歩、足を踏み入れた子どもたちは、まず施設の方に挨拶。年長になって配られた春の図鑑を首から下げ、嬉しそうにいろいろな植物に興味をもつて調べたり、花の匂いを嗅いだりしながら、花に集まる虫を見つけた。見



て見て！ここに、図鑑と同じ花が咲いているよ！と周りの友だちに伝えながら散策。実際に目の前にある植物と見比べる眼差しは真剣そのものでした。探究心や自然への興味、関心の高まりに、年長らしい成長を感じることができました。広い芝生では思い切り体を動かして、ハンカチおとしを楽しみました。最後にお礼を言い、満面の笑みで幼稚園に帰りました。

夕涼み会

七月二十日

今年度も昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、お泊まり保育に代えて、夕涼み会を行いました。

夕方から順次、保護者と幼稚園にやってきた子どもたちは「なんだか、いつもの幼稚園と違う」「楽しそう」とわくわくする気持ちで表情から溢れ出ていました。受付を済ませ、夕涼み会がスタートします。どこの部屋のゲームから始めようかなと園内を歩き回り、お菓子釣りでは、「どの紐を引っ張ろう？」と悩み、モンスターを倒せでは「僕、ボール投げるの上手だよ」と自信満々でモンス

ターにボールを当て、魚釣りでは

「簡単だよ」といいながら、真剣に狙った魚を釣り上げていました。一人で楽しむ



ゲームだけでなく、応援が必要なゲームもありました。目隠しをして手には棒を持ち、そばにいるお家の方の「右！右！あつ！行き過ぎ！」という声をよく聞きながら、スイカを割りました。

子どもたちにとって夕涼み会が、楽しい夏の思い出の一つになってくれたらと願います。

つづき Pick up すくすく大きなあれ

「わかめは苦手」

給食を食べながら、c「わかめ苦手だなあれ」という声が聞こえてきました。それを聞いたクラスの子どもが「わかめを食べたら髪の毛がサラサラになるんだよ」「髪の毛、伸びるんだよ」と声をかけました。友だちの話を聞いて、食べようと決心したその子どもは、見事完食しました。そして、教師に「先生！髪の毛サラサラになったでしょ！ほら、伸びたよ」と得意げに報告していました。その後、給食

「ダンゴムシ探し」

にわかめがでても好き嫌いをせずに食べ、必ず髪の毛を触って確認しています。

園庭で見つけたダンゴムシをたくさん集め、観察している子どもたち。保育室に戻る時間になっても、ダンゴムシと別れるのが、嫌な子どもが一人いました。c「ダンゴムシを家に帰してあげないとお父さんやお母さんダンゴムシが心配するよ」「ダンゴムシは、暗い所が好きだから、そこに帰してあげないとかわいそうだよ」の友だちの言葉に、急いでダンゴムシを見つけた場所に戻しに行きました。

新二年生です。よろしくおねがいします

◇入学式（四月九日）

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のために、アクリル板の設置、人数の制限、またオンラインで中継するなど、様々な対策を講じて式を行いました。引き締まった表情を浮かべた新入生十八名が、六年生に手を引かれて入場しました。二年生から花束を受け取り、みんなの顔から笑みがこぼれました。



◇親子の集い（四月二十二日）

甲子園短期大学のイネーブルガーデンへ行きました。たくさんのお花の中から、自分が好きな花を採り、飾りつけをして親子でフラワーキーを作りしました。活動中には保護者同士も親睦を深めることもでき、楽しいひとときになりました。



◇いろいろな経験・体験

低学年から多くの経験・体験をすることにより様々な考え方ができ、自分の得意なことを発見できることがあります。さらに自分に自信を持って学びを深めることができます。そういった自己肯定感を高めることで主体的に活動できる児童の育成を行っています。



生活科：ゴムの力で動く船

すばらしい先輩たち



定森 優一郎
五十七期生
京都大学
経済学部二回生

私は二十歳になったばかりの学生ですが、後輩のみなさんに二点アドバイスをさせていただきます。一つ目は、「何か一つでいいので真剣に頑張ること」です。もちろん今すぐにでなくても構いません。勉強、クラブ活動、学校行事その他どんなことでもいいので、目標を持って努力をし、結果にこだわるのではなく、努力の過程を人に胸を張って自慢できるものに

球技大会

五月に、学団ごとの混成チームで球技大会を行いました。新型コロナウイルス感染防止を踏まえ学年を分けての開催としました。

低学年は転がしドッジボール、中学年は公式ドッジボール、高学年は王様ドッジボールをしました。各チーム一致団結して試合に臨みました。



サマー体験学習

六月十九日

今年度は学院小学校を会場にして対面で開催しました。多くの年長・年中児の参加があり、感染症対策を考慮して、少人数のグループに分かれ、「謎解き学校探検」を行いました。

校内のいろいろな教室で謎を解きながら宝箱を探します。園児たちは、アスレチックや工作、プログラミング学習などを楽しみました。最後に宝を見つけると、みんな満面の笑みを浮かべ「楽しかった！明日も学校に来たい！」という声がたくさんあがっていました。



コロナ禍での取り組み

コロナ禍で、学校での活動が制限されている現在、小学校では感染症対策を十分に講じた上で、工夫をしながら教育活動を実施しています。その中でも昨年度から行っている、遠隔教育（オンライン教育）では授業や行事で配信する際の課題も見つかり、アフターコロナの時代にも必要になってくるICT教育に向け、教職員一同力を合わせ日々実践や研究を行っています。

一学期に、警報が出て臨時休校になった際、オンラインで授業を行いました。また、日常の授業でも事情により登校できない場合でも、オンラインで授業に参加できるようにしています。

行事面では、昨年度実施できなかった学習発表会を、今年度は対面とオンラインのハイブリッド型で実施する予定です。遠方にお住まいの方に、よりリアルタイムでご覧いただけるようになります。未来は予測困難ですが、力を合わせてコロナ時代を生き抜き、これからも明るく元気な小学校であるように工夫していきます。



令和三年度
入学式

令和三年度甲子園学院中学校・高等学校入学式が四月七日に講堂で行われ、今年は中学生十七名、高校生八十二名の新生を迎える



前で、新生と保護者が晴れやかな顔で写真を撮っている姿が印象的でした。新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご来賓の方々や在校生の参列を見合わせ、保護者の参列を一名のみとしました。吹奏楽部の演奏により緊張しながらも凛とした表情で新生が入場しました。

校長式辞では、建学の精神としての校訓三綱領が「生きる力の源となる」こと、「勉強に励み、部活動にいそしみ、行事で盛り上がり、かがえのない友を見つけ、将来の夢に近づく」学校生活を送れるよう頑張ろうとメッセージを送り、新入生たちは新たな生活がはじまる期待に胸を膨らませ耳を傾けていました。

新生代表は「入学に際し、甲子園学院中学校・高等学校の教え

を良く守り、勉学に励み、学院生徒としての自覚と誇りをもつて自己の向上に努めることを誓います。」と力強

す。」と力強く宣誓しました。式後、教室で初のホームルーム活動があり、教科書や副教科書の確認では教科の多さや教科書の厚さに驚いていました。また、下校する際にはこやかな表情で「また明日」とクラスメートと声をかけあっていました。



これから三年間あるいは六年間、楽しい学院生活を送ってほしいものです。翌日からは対面式、募参校舎内見学、部活動紹介など、様々なオリエンテーションがあり、少しずつ学院生活に慣れ、学習や部活動に積極的に取り組んでいくことでしよう。

◇対面式と部活動紹介

四月八日に

対面式と部活動紹介を体育館で行いました。対面式は在校生と新入生が初めて顔を合わせる機



吹奏楽部

五月二十四日、東京オリンピック聖火イベントに出演依頼されましたが、兵庫県に緊急事態宣言が延長されたことを受けて聖火リレーは中止となり、演奏はできませんでした。しかし校内でグッズの贈呈が行われ、生徒たちにとっては記念となる催しとなりました。

六月二十六日、第十回定期演奏会があましんアルカイックホールで行われました。記念すべき第十回に加え、昼夜二回公演ということで、たくさんのお客様が来場されました。

ゲストブレーヤとして世界的トロンボーン奏者の中川英二郎氏を招いて『オーバー・ザ・レインボー』や『ルパン三世』と一緒に演奏したり、作曲家・福島弘和氏に依頼した委嘱作品『吹奏楽のため

待機する体育館に新入生が入場し、生徒会の司会で式が始まりました。最初に校長から新入生に向けて温かいメッセージがあり、続いて在校生代表として生徒会長が、新入生に歓迎の挨拶を行いました。その後、新入生代表に生徒会から花束の贈呈があり、最後は吹奏楽部による歓迎演奏が披露されました。

午後からは部活動紹介がありました。吹奏楽部の合奏から始まり

のエッセイⅢの演奏を行うなど記

うなど記
念となる
演奏会に
花を添え
ました。

重厚な
クラシッ
クステー
ジで開演

し、みんなで盛り上がるポップス
テージ、そして夜の部の最後を締
めくくる『宝島』には卒業した部
員も参加して総勢百三十名を超え
る吹奏楽LOVERたちの笑顔で
幕を閉じました。

その後、七月に入ってから二年ぶりに行われる吹奏楽コンクールに向けて練習がきました。昨年はコロナ禍でコンクールが中止になり、二年ぶりの舞台です。

七月三十一日、第六十八回兵庫



ために趣向を凝らした発表でした。

県吹奏楽コンクール西阪神地区大会がアミティ・ペイコムホールで開かれました。プロگرام一番というプレッシャーをはねのけ、生徒たちはのびのびと演奏し、最優秀賞を獲得しました。

八月十三日、あましんアルカイックホールで開催された兵庫県大会でも練習の成果を思う存分に発揮することができました。地区大会にくらべ会場が広くなり、響きや音ののびが変わり堂々とした演奏でした。豪雨の中の大会でしたので、学校にもどってきた生徒たちは疲れていましたが、金賞の結果を知り大喜びでした。関西大会出場への切符を手にし、さらなる練習への決意を新たにしました。

その後、吹奏楽部はコロナ禍との闘いでした。感染症拡大の影響により、十分な練習ができず、不安な中でも生徒たちは今できることに一生懸命取り組みました。出演できただけでも価値がある状況

本番を迎えることができました。
八月二十九日、関西吹奏楽コンクールは和歌山県民文化会館で行われました。課題曲は県大会の時よりもさらに演奏に磨きがかかり素晴らしい音色を響かせました。プログラム一番という再度のプレッシャーをはねのけ、金賞を獲得しました。

来年度は全国大会出場の期待が膨らむ結果となりました。

ランニング フェスティバル

五月三十一日、中学校・高等学校ランニングフェスティバルを実施しました。運動やスポーツを正しく理解し、



全力を尽くし競技する態度と観戦する態度を養うことや、学級、学年、学校全体が心を同じくして交流を

深め、正しい仲間意識をもち、望ましい人間関係を身につけることなどを目的として学年対抗で行われました。

オープンスクール

七月三十一日、八月七日にオープンスクールを行いました。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの実施となりましたが、令和四年度から再編される高等学校新コースミニ説明会をはじめ、毎年好評の部活動体験等、多くの児童・生

のマスク着用や、競技前後の消毒、拍手での応援など感染症予防の徹底を計りました。各学年が白熱した戦いを繰り広げ、生徒たちは各競技に全力で取り組みました。その中でもリレー種目の二競技は教員チームも参戦し、特に盛り上がりを見せました。

結果は中学校が優勝、準優勝が高等学校二年となりました。今回のランニングフェスティバルは学年対抗で行ったのでクラスメートだけではなく他クラスも応援するなど、一体感が生まれました。コロナ禍においてもそれぞれの役割を認識して行動することで、どの生徒も大きな成長を遂げた一日となりました。



徒・保護者の方々に本校の雰囲気を感じていただき

ました。

☆今後のオープンスクール

日程は

十月二日(土)、二十三日(土)、十一月二十日(土)です。



特色ある授業を紹介します

◇中学校 英語

中学校では各学年、週三時間の英会話授業を展開しています。この授業は、ALT (Assistant Language Teacher) の先生と日本人教員で英語だけを使った学習方法 (ALL ENGLISH) を採用しています。昨今取り上げられている英語の四技能五領域の向上を目的とし、生徒たちは、自らテーマを考え、調べ学習に取り組み、プレゼンテーションをするなど、自分の調べたことや考えたことを



英語で表現することに挑戦しています。また、英語での寸劇にも取り組み、グループで最初から最後まで脚本・演出を考案し、発表するといったこともしています。

◇生活デザインコース

生活デザインコースは、「衣・食・住」について学び、専門的な知識や技能を身につけます。調理演習や被服演習だけではなく、茶道や華道などの日本文化についても学びます。茶道は裏千家、華道

◇5年一貫幼児教育コース

一学期の後半から夏休みにかけて、5年一貫幼児教育コースの生徒たちは全学年「手づくり絵本の制作」に取り組んでいます。短大の先生方から、絵本体験により培われる子どもの成長、絵本制作のプロセス、絵本紹介プレゼンテーションなどについて指導いただき、「絵本コンクール in 甲子園短大」への応募を目指しています。



一学期末に計画していたサムネイル(下書き段階)での発表会が気象警報の発令により実施できなかったのが残念でしたが、子どもたちへの思いを作品に込めて夏休みに最後の仕上げを行いました。

は小原流の指導を受けています。

茶道では、お辞儀の仕方やおすまの掛け方、足の運び方など基本的



◇短大連携

七月十二日、高校一年生による甲子園短期大学との連携講座が実施されました。

当日は一年生の三クラスがそれぞれ、「園芸」「介護・保育」「情報処理」の三分野に分かれて、講座を受講しました。生徒たちは、普段と違う実習形式の授業や講義時間の長さに驚きながらも、各分野での新鮮な学びに充実した表情を浮かべていました。「今まで見えなかった介護や保育の仕事に関して、詳しい内容が分かった」「パソコンを使う上での基礎的な知識を、分かりやすく説明してもらえた」など前向きな声が多く聞かれ、連携講座での学習が有意義なものとなったことが窺えます。この経験を、進路形成に役立ててもらいたいと思います。



な動作から教わり、袱紗のさばき方、お点前の仕方、お茶のいただき方を学んでいます。高校一年生は初めてのことが多いですが真剣に取り組んでいます。高校二年生は昨年教わったことを思い出しながら、さらに技術を磨いています。

令和三年度 入学式

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和三年度の入学式は対面と遠隔のデュアル方式で実施されました。新入生は大講義室で対面参加、Ⅱ回生は別教室において視聴、また来賓並びに保護者の皆様には、自宅や勤務場所において遠隔でご視聴いただきました。



当日は感染防止のため、玄関において検温・手指消毒の徹底、会場は座席の間隔をとり、換気を十分に行い、環境が整えられました。



早坂三郎学長から入学を祝う言葉、そして新入生代表宣誓などがあり、式は無事終了しました。その後、新入生は短期大学での学業生活を理解するためのスタートアップガイダンスを受講しました。短大生活では時間を大切に、初心を忘れず自らの夢と目標を心に刻み、研鑽を積んでほしいとの話がありました。

第Ⅱ回 絵本コンクール

短大では昨年度より「絵本コンクールin甲子園短大」を実施しています。絵本コンクールの目的は、①高校生の絵本への関心を高めること②乳幼児の親子の読み聞かせ、および大人の絵本の読書活動啓発に寄与すること③オリジナル絵本の制作を通じて、高校生の幼児教育および高齢者支援領域などへの関心を高めることにあります。今年度は高校生対象の部と短大生対象の部に分けて募集をしました。入賞作品は甲子園短期大学大祭にて表彰式が行われる予定で、読み聞かせの動画作品として短大インスタグラムなどでも発表する予定です。

イネーブルガーデンの四季

短大の園芸実習場には、だれもが可能性を見いだすという意味をもつ「イネーブルガーデン」があります。子どもからお年寄りまで、あらゆる人が植物に親しみ、園芸活動を楽しめるよう設計された庭は全国的にも珍しく、「初級園芸福祉士」の取得を目指す学生の実習場でもあります。イネーブルガーデンでは、四季を通じて様々な花が咲き、果物が実をつけます。



※イチゴ（上）、パイナップル（下）
特にジャガイモ、トウモロコシ、ミニトマトなどが育つ菜園は、楽しく育て、収穫したものが美味しい食とながら貴重な学びの場となっています。



※ミニトマトの苗（上）、実（下）

高校生エッセーコンクール

コロナ禍ではありますが今年度も「高校生エッセーコンクール」の作品を募集しました。

平成二十七年にスタートをして、七回目を迎えた今年のテーマは「SDGsと私が取り組めること」です。六月七日から募集を始め、九月二十二日の申し込み期限までに全国の高等学校在校生から多数の作品が集まりました。

これらのエッセー作品は、厳正なる審査を経て十月十五日に結果が発表されます。優秀賞（二点）には表彰状および副賞として一万円相当の図書カード、奨励賞（若干名）にも表彰状および副賞として五千円相当の図書カードが進呈されます。（各賞の受賞数は応募数等により変更の場合有）

表彰式は十月三十日に甲子園短期大学大祭にて行う予定ですが、新型コロナウイルス感染の拡大状況により変更する場合があります。

入試情報・学校見学 オープンキャンパス

甲子園短期大学では、変化の激しい社会の中でも自分らしい人生を切り拓く力が育ち、様々な知識や技術を身につけることができるよう、カリキュラムを編成しています。

生活環境学科ライフキャリアフィールドでは幅広く学び社会で主体的に生きる基礎力を身につけます。介護福祉フィールドでは的確な判断力とマネジメント力を備えた介護福祉士を、幼児教育保育学科では、子どもの健やかな発達を援助する知

識と技術を身につけた保育者をめざします。多くの資格取得とともに、就職先は病院・医院、卸売業・小売業、ホテル・外食産業、学校、金融関係、高齢者施設、障がい者福祉施設、保育所、幼稚園、認定こども園、託児所、児童福祉施設など多岐に亘ります。

来年度の学生募集は生活環境学科三十名、幼児教育保育学科四十名です。コロナ禍による中止も懸念されましたが、七月三十一日と八月一日のオープンキャンパスでは、学生とのトークやキャンパスツアー（見学）も実施しました。



Webオープンキャンパス、学校見学や入試相談を随時実施していきます。コロナ禍ゆえ、すべて事前予約制となっています。

令和三年度 入学式

四月六日、令和三年度甲子園大学入学式を三号館大講堂で挙行了ました。今年度は感染予防対策を踏まえ、新入生のみの出席となりました。

佐久間春夫学長は式辞の中で、大学においては①主体的・継続的に「どう学ぶのか」が問われること、②知的



オープンキャンパス

六月二十七日、今年度最初の来場型のオープンキャンパスを、午前・午後の二部制で開催しました。栄養・心理学部とも、学部・学科ガイダンスや入試説明会・入試相談会は共通でしたが、各学部・学科独自のイベント盛りだくさんで、高校生や保護者の方々をお迎えしました。



最後は、食堂前で甲友会学生によるトークセッションを行いました。各テーブルに座った参加者と甲友会学生との対面形式により、現役の甲子園大学生による授業の取り方や大学生活の苦労話などで大いに盛り上がりま



新入生歓迎会

四月十七日、甲友会主催の新入生歓迎会が開かれました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催中止となり、今回は二年ぶりの開催となりました。

今年度は新二年生も対象に、午前・午後の二部制で開かれ七十名近い参加となりました。

複数のチームに分かれ、メンバーとの会話を通して仲間外れを探す「ボッチッチはお前だ」などのミニゲームを楽しんだ後、大学生活に関する質問コーナーが続きま



参加者からは、「六十点取れますか?」「難しい科目は何ですか?」「就活に向けて資格を取る時間がありますか?」など多くの質問がありました。初めは緊張した面持ちだった新入生も次第に気持ちや和らぎ、楽しい時間を共有することができました。

なお、コロナ禍での開催のため、検温、手指消毒や人数制限によるソーシャルディスタンスの確保等、感染防止の対策を徹底し、また事前予約制による開催となりました。

科学研究費助成事業採択へ 森田久仁子准教授の研究

四月一日、令和三年度科学研究費助成事業の審査結果が開示され、栄養学部フードデザイン学科の森田久仁子准教授の研究課題「聖なるモノをめぐる宗教実践の現代的展開・加工技術と廃棄法の変化への着目」(基盤研究C)が採択されました。



日本学術振興会の科学研究費助成事業は、人文科学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に

チョコアートコンペ開催

六月十六日、栄養学部は栄養学科一年生とフードデザイン学科一年生を対象に、チョコアートに挑戦するイベントを開催しました。

当日は、不二製油(株)梅野宏治氏による「業務用チョコレート



基づく研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

今回採択された課題は、大事にしてきた聖なるモノを最終的に破壊し、分別処分せねばならない状況に対する地中海カトリックの人々の葛藤に着目し、信仰行為、宗教倫理、法律上の罪意識の間で揺れるコミュニティ及び個人の対応を描くこと(①フィールドワークとエスノグラフィーによる他者の内在的理解)、及び、新たな倫理観の構築プロセスとその論理を明らかにすること(②人類学への理論的貢献)を研究の目的としています。助成期間は三年間です。

「その種類と隠れた機能と商品開発」の講義を受け、チョコレートに関する知識を吸収しました。その後、実験室に移動し、宝塚名物の炭酸せんべいの表面に、今回のお題である「海」をイメージした思い描いた絵を描きました。四十五分という限られた時間内で、三枚以上も仕上げる強者が出るなど、非常に面白いイベントになりました。



学院生の活躍

(○内は開催月)

高等学校剣道部

⑥第六十五回兵庫県高等学校総合体育大会

女子団体

女子個人

女子個人

優勝 井上 夏希(高二)

⑦第五十九回近畿高等学校剣道大会

女子団体

女子個人

準優勝 井上 夏希(高二)



井上夏希さん

◇大切にしていること

「中学校の時から現在まで『生活即剣道』という教えを信じ、試合前日には必ず家の掃除をしています。来年は優勝し日本一を狙います。」

中学校剣道部

⑥令和三年度西宮市中学校総合体育大会

女子団体

女子個人

女子個人

優勝 三葉 類(中三)

準優勝 馬田 美陽(中三)

3位 橋本 凜音(中三)

3位 福家 千紘(中三)

⑦第六十五回阪神中学校総合体育大会

女子団体

女子個人

女子個人

優勝 三葉 類(中三)

準優勝 橋本 凜音(中三)

3位 馬田 美陽(中三)

3位 福家 千紘(中三)

⑦第六十五回兵庫県中学校総合体育大会

女子団体

女子個人

準優勝 福家 千紘(中三)

3位 福家 千紘(中三)

⑧第七十回近畿中学校総合体育大会

女子団体

女子個人

3位 福家 千紘(中三)



高校では必ず日本一になるぞ！

中学校バレーボール部

⑥第四十一回西宮市中学校総合体育大会バレーボール競技大会

優勝 三葉 類(中三)

準優勝 橋本 凜音(中三)

3位 福家 千紘(中三)

⑦阪神中学校総合体育大会第七十三回バレーボール競技大会



先輩たちに続け！新人戦も優勝めざして頑張ります

吹奏楽部

⑦第六十八回兵庫県吹奏楽コンクール第四十四回西阪神地区大会

(高等学校A部門) 金賞

⑧第六十八回兵庫県吹奏楽コンクール(高等学校A部門) 金賞

⑧第七十一回関西吹奏楽コンクール(高等学校A部門) 金賞

教育振興基金

創立五十周年(平成二年)を前に、その記念事業のひとつとして、教育の充実、向上を図ることを目的に「甲子園学院教育振興基金」が設立され、その基金づくりのための募金活動が同年四月から開始されました。この基金の事業は文部科学大臣から「特定公益増進法人」及び「税額控除対象法人」であることの証明を得て実施しております。

役職人事

大学 採用
副学長

伏木 亨
(四月一日)

令和3年度 購入備品等

購入した主な備品等

校種	購入した主な備品等
大 学	CO ₂ インキュベーター・薄型フィルターキット、皮膚電位計、視聴覚機器(テレビ・スタンド・専用板)、シュレッダー、通信環境整備関連機器
短 大	衣類乾燥機
中 高	液晶テレビ50型、ブルーレイレコーダー、USBドキュメントカメラ、OAチェア、プロジェクター、講堂エアコン修理
小学校	コンサートパズドラム、パズドラムスタンド、コンサートスネアドラム、平デスク
幼稚園	洗濯機、スリッパ
法 人	デジタルカラー複合機

以来、おかげさまで各学校の在学生の保護者、卒業生、教職員や企業の方々からその趣旨をご理解いただき、その果実を各学校園において、教育環境、施設・設備の充実のために有効活用させていただいております。

「甲子園学院教育振興基金」をさらに充実させたいとの願いから引き続きⅦ期募金活動(令和元年から五年間)を行ってまいります。今後とも、募金の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

園の輪

そののわ No.179

令和3年9月28日発行

学校法人 甲子園学院

〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号

TEL. 0798(67)2100

FAX. 0798(67)5488

http://www.koshien.ac.jp/honbu/

あとがき

◆編集委員のメンバーが新しくなりました。今年も編集委員一同、学院各々学校園の様々な活動の紹介に努めてまいります。◆コロナ禍という困難な状況でも頑張る学院生の姿をたくさんお届けします。

令和3年度 園の輪編集委員

西脇 敏行	守山 修	坂田 和隆	西田 朋世	馬部 真也	川畑 聴宏	加賀 瀬順平	平田 智永子	猿丸 恭子	上田 智佳	堀田 浩之	角村 法久	浅井 航洋	佐藤 典子	久米多香子(編集委員長)
(法 人)	(法 人)	(法 人)	(幼稚園)	(小学校)	(中 高)	(中 高)	(中 高)	(短 大)	(短 大)	(短 大)	(大 学)	(大 学)	(大 学)	(大 学)